

「日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）」は、河川再生について共に考え、次の行動へ後押しする未来志向の情報を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい河川再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的に活動する団体です。またアジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに向け発信し、海外の素晴らしい取組みを国内に還元する役割を担います。(Since 2006)

目 次	Pages
➤ JRRN 事務局からのお知らせ.....	1
➤ JRRN 会員寄稿記事.....	2
➤ JRRN 会員・ARRN 関係者からのお知らせ・冊子の紹介.....	3
➤ JRRN 会員募集中.....	4

JRRN 事務局からのお知らせ JRRN Activity Report

小さな自然再生普及プロジェクトー「小さな自然再生」現地研修会開催に向けて再起動！

新型コロナウイルス感染拡大に伴い4月より企画調整を保留しておりました「小さな自然再生」現地研修会（主催：「小さな自然再生」研究会、研究会幹事：JRRN）ですが、本年の開催に向けていよいよ動き出しました。

2015 年度よりスタートした「小さな自然再生」現地研修会は、河川基金の助成をいただきながら、2017 年度までの3年間で計8回開催しております。（表1）

今年度は、全国で3回程度の現地研修会を予定しておりますが、新型コロナウイルス感染拡大防止策を徹底するなかでの開催となるため、これまでと開催の規模や方法が異なる研修会となることが予想されます。しかし、with コロナの時代にあっても、実際のフィールドから小さな自然再生を学ぶ機会は変わらず重要と考えており、地元の水辺を何とかしたいと頑張る川づくりの担い手の方々と協働し、今年度の研修会を実現していきたいと思ひます。

なお、本研修会の開催地は、河川や水路の自然環境に課題のある地域の担い手（市民団体や河川管理者等）よりまずは立候補頂き、どのようなテーマでの研修が相応しいか、また研修会開催に際しての地元関係者と「小さな自然再生」研究会の役割分担・費用負担等に関わる事前の丁寧な企画調整を経て最終決定致します。

今年度については、これまで現地研修会開催を希望されてきた地域の方々と実施の可否について調整し、開催が決まった地域から順に皆様にご案内していく予定です。

また、今年度の開催は難しい場合でも、来年度以降に「是非ともうちの地域で現地研修会を！」と希望する川づくりの担い手の方は、JRRN 事務局（info@a-rr.net）までいつでもご相談頂ければ幸いです。

（JRRN 事務局・和田彰）

表1 「小さな自然再生」現地研修会の開催実績

回	開催日・開催場所	(上段) 共催 (下段) テーマ
1	2015 年 9 月 8 日 愛知県豊田市・岩本川	豊田市矢作川研究所 岩本川でできる小さな自然再生を考える
2	2015 年 12 月 17 日 滋賀県長浜市・高時川	滋賀県 瀬切れ時の水棲生物の避難場所を創出するための川づくり
3	2016 年 7 月 29 日 福岡県福津市・上西郷川	上西郷川日本一の郷川をめざす会 間伐材水制の施工実習
4	2016 年 10 月 28 日 兵庫県宝塚市・武庫川	兵庫県県土整備部土木局武庫川 総合治水室 魚類の生息・遡上環境の改善～ウナギ石組や落差工対策
5	2016 年 12 月 8 日 千葉県白井市・神崎川	神崎川を守るしろい八幡溜の会、白井市 西白井・神崎川上流部を地域資源として効果的に活用するには？
6	2017 年 10 月 17 日 福井県福井市・日野川/ 志津川	国土交通省近畿地方整備局福井 河川国道事務所、福井県 魚類の遡上環境の改善 ～九頭竜川流域の連続性確保に向けて～
7	2017 年 12 月 6-7 日 岡山県西粟倉村・吉井川 流域	エーゼロ株式会社、応用生態工学会（大阪地区会、岡山地区会） 吉井川のつながりを取り戻すには小さな自然再生で何かできるか？
8	2018 年 2 月 27 日 秋田県大仙市・斉内川	秋田県建設部河川砂防課 道の駅と直結した水辺の小さな自然再生と地域の賑わい創出

水辺からのメッセージ No.136

岡村幸二 (JRRN 会員)

赤羽自然観察公園： 谷状の地形に自然の森が保護され 野鳥や水生生物の楽園に出会える



撮影：2020 年 8 月（東京北区・赤羽自然観察公園）

◆自然の回復・動植物の保護を前提とした公園

元自衛隊十条駐屯地であった場所を、在来種の森を残して長期的に自然の回復を図る公園としました。自然保護区域設定や自然観察区域内の湿地保存など、できるだけ人の手を入れない管理をしています。

◆小動物を探して森を探検する子供たち

「東京の名湧水 57 選」にも選ばれている湧き水は、水田や水鳥の池にも注いでおり、公園内の豊かな自然をささえています。公園の一角には稲田がつくられ、毎年体験学習の田植えが行われます。

■ 連載『水辺からのメッセージ』のバックナンバーは JRRN ホームページ内の以下のページよりご覧いただけます！

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/category/mizube>

JRRN 会員・ARRN 関係者からのお知らせ (2020年8月末まで提供分) Information from member

【JRRN 会員からの提供情報】

■ リバーフロント研究所のSDGsへの取り組み

JRRN 事務局を運営し団体会員でもある公益財団法人リバーフロント研究所より、SDGsの達成に向けたリバーフロント研究所の取組の紹介です。

リバーフロント研究所は、安全で豊かな河川と水辺、にぎわいある地域づくりを目指し、さまざまな課題の解決へのチャレンジを大きなテーマに活動しています。特に、温暖化により激甚化する水災害への防災減災対策や、少子高齢化など社会構造の変化に対応していくために、以下の5つの取り組むべき課題と進むべき方策を提示し、技術革新・現場実践を通じスタンダードをつくり社会に実装する新たな挑戦を続けることで、SDGsの達成に貢献してまいります。

- 自然の営みを活かした防災・減災へ
- 安心して水辺にくらせるまちづくり
- まちと水辺に豊かな自然を
- 水辺に豊かな歴史・文化とうるおいを
- 水辺とひとを、つないでひろげて

◆詳細は右記参照：<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/3732.html>

リバーフロント研究所のSDGsへの取り組み

SDGsの達成に向けた方針

リバーフロント研究所は、安全で豊かな河川と水辺、にぎわいある地域づくりを目指し、さまざまな課題の解決へのチャレンジを大きなテーマに活動しています。

特に、温暖化により激甚化する水災害への防災減災対策や、少子高齢化など社会構造の変化に対応していくために、**取り組むべき課題と進むべき方策を提示し、技術革新・現場実践を通じスタンダードをつくり社会に実装する新たな挑戦を続けることで、SDGsの達成に貢献してまいります。**

○自然の営みを活かした防災・減災へ
○安心して水辺にくらせるまちづくり
○まちと水辺に豊かな自然を
○水辺に豊かな歴史・文化とうるおいを
○水辺とひとを、つないでひろげて



【海外からの提供情報】

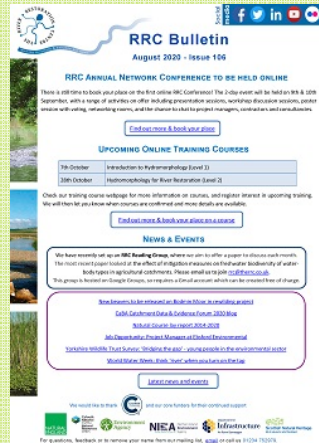
■「RRC（英国河川再生センター）最新会報」紹介

RRC（英国河川再生センター）の最新会報（2020年8月号）が事務局より届きました。

本号では、9月にオンライン開催するRRC年次講演会、10月開催の二つのオンライン研修、また河川再生に関わる論文を毎月輪講するRRC Reading Group立ち上げ等について紹介されています。

◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/3729.html>



【海外からの提供情報】

■「巡回展「雨展～あらぶる雨・めぐみの雨～in 川の駅はちけんや」(9/4～10/18)」

JRRNも協力する水の巡回展ネットワーク(JAWANET)企画製作の巡回展「雨展～あらぶる雨・めぐみの雨～」が、9/4（金）～10/18（日）まで大阪の川の駅「はちけんや」で開催されます。

（主催：国土交通省近畿地方整備局、大阪府）

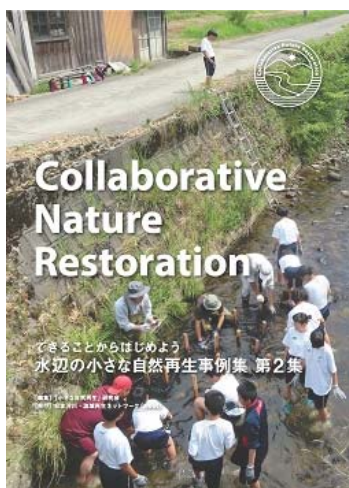
◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/3726.html>



冊子の紹介 Publications

■ できることから始めよう 水辺の小さな自然再生事例集 第2集



市民が河川や水路の管理者と連携して日曜大工的に取り組む「小さな自然再生」の事例集の続編（第2集）が完成しました。

本事例集は、水辺の小さな自然再生に取り組む全国の担い手の皆さまに、活動の経緯や目的、実施体制、工法の説明や工夫した点、使用材料や工具、施工後の維持管理や利活用の工夫、活動の効果やキーパーソンなどを執筆頂いたものです。

- 編集：「小さな自然再生」研究会
- 企画・構成：吉富友恭 東京学芸大学環境教育センター
- デザイン：本間由佳 明星大学 デザイン学部 デザイン学科
- 発行：日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）
- 発行年月：2020年3月

■上記冊子の入手方法はこちらから：<http://jp.a-rr.net/jp/news/info/1149.html>

JRRN 会員募集中 JRRN membership

■ JRRN の登録資格（団体・個人）

JRRN への登録は、団体・個人を問わず**無料**です。市民団体、行政機関、民間企業、研究者、個人等、所属団体や機関を問わず、河川再生に携わる皆様のご参加を歓迎いたします。

■ 会員の特典

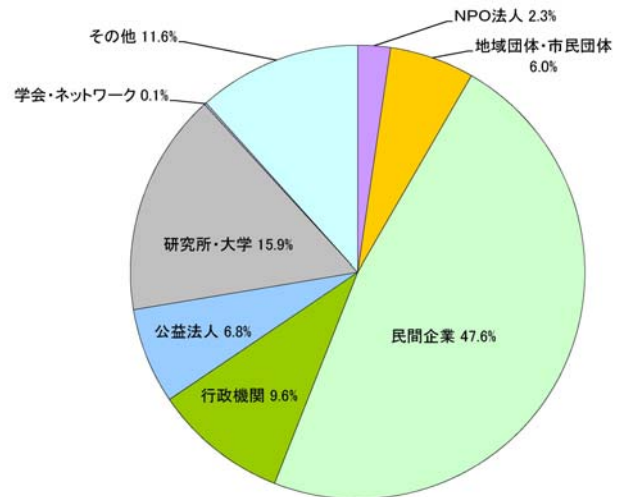
会員登録をされた方々へ様々な「会員特典」をご用意しています。

- (1) 国内外の河川再生に関するニュースを集約した「JRRN ニュースメール」が週 1 回メール配信されます。
- (2) 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が入手できます。また JRRN 主催行事に優先的に参加することが出来ます。
- (3) 必要に応じた国内外の河川再生事例等の情報収集の支援を受けられます。
- (4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベント開催案内等を国内外に発信できます。
- (5) 韓国、中国をはじめとする、ARRN 加盟国内の河川再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支援を受けられます。

■ 会員登録方法

詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.a-rr.net/jp/member/registration.html>



2020 年 8 月 31 日時点の個人会員の所属構成
 （個人会員数：808 名、団体会員数：60 団体）
 ※8 月の新規入会数：個人会員 1, 団体会員 0

JRRN 会員特典一覧表（団体会員・個人会員）

提供サービス	JRRN 個人会員	JRRN 団体会員	非会員 (一般)
1 ホームページへのアクセス及び記事へのコメント入力 ※1	◎	◎	◎
2 ホームページ「イベント情報」欄でのイベント掲載 ※2	◎	◎	◎
3 ニュースメール(週1回)の配信 ※3	◎	◎	×
4 Newsletter(毎月)及び年次報告書(年1回)等の発刊案内メールの配信 ※3	◎	◎	×
5 JRRN/ARRN主催行事の優先案内・優先参加 ※4	◎	◎	×
6 国内外の河川再生関連情報・技術収集や専門家・組織紹介の支援 ※5	◎	◎	×
7 ホームページ「会員からのお知らせ」内及びニュースメール「会員からのご案内」欄で団体が関わる行事・出版物・製品等の案内の掲載 ※6	△※7	◎	×
8 ホームページ「会員登録状況」「国内団体」内及び年次報告書内で団体名の掲載	×	◎	×
9 ARRN活動に関連する英語ニュース(ARRN Newsletter等)の不定期配信 ※8	×	◎	×
10 JRRN及びARRNが保有する国内外専門家・団体等との連携等の支援 ※9	×	◎	×

会員特典詳細はウェブサイト参照：<http://www.a-rr.net/jp/member/benefit.html>

【お気軽にお問い合わせください】

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 事務局



〒104-0033 東京都中央区新川 1 丁目 17 番 24 号 NMF 茅場町ビル 7 階 (公財) リバーフロント研究所 内
 Tel:03-6228-3865 Fax:03-3523-0640 E-mail: info@a-rr.net
 URL: <http://www.a-rr.net/jp/> Facebook: <https://www.facebook.com/JapanRRN>